

「放射能」

そして「ゆうあい」

小川矩弘 賛助会員

私は視覚に障害があり、「ゆうあい」テープを聴いています。朗読をなさっている女性の声がとてもきれいで、楽しいひと時です。

職業柄、右眼視力が弱かったのですが、7年前に左眼網膜剥離になり、少し大きめのモザイク模様の世界に住むようになりました。動きのある物にはまったく対応出来ず、ゆっくり歩くしまつです。視力検査は、静止している文字・記号の読み取りですからなんとか読めます。この検査結果から障害手帳はダメ、白杖の貸与すら許可されません。私は外見からすると健常者に見えるらしく、老人会の集まりなどでも「立ってないで手伝って」。駅の薄暗い階段をモタモタ降りていると、後ろから「なにやってんだ」こんな非難の声はしょっちゅうです。知人に挨拶された時よくわからないでいたりして、そんなすると相手の方は私が無視したと思ひ、とつてもイヤな思いをするらしく、

人間関係が崩れたりもします。そんなこんなで人なかに出るのは好きではありません。

3・11震災で福島原発から放出された放射能が、黒い雨となつて茎崎地区に降りそそぎました。茎崎でも〇〇地区は特に高く、こんな所に幼子が何年も生活したらどうなるか恐ろしいです。市は公共施設の除染は行いますが、民間の住宅・畑等は実施しません。茎崎地区の様な広域汚染地域は、民有地も含めて全て、くまなく除染しなくては、線量は下りません。私達茎崎放射能対策の会では、『汚染地区全域の除染』を求める請願を提出して、幼子・若い女性の皆さんが健やかに生活出来る茎崎を目指して大きな署名行動を立ち上げていきます。「全土の除染は予算が莫大で、かつ除染土の置き場がない」と国も市も言いますが、こんなことも出来ないなら、そもそも原発など成立する分けがありません。身障協の皆様もぜひ力を貸してください。

注：小川さんは、大震災以来、特に原発による放射能に関して尽力しておられます。

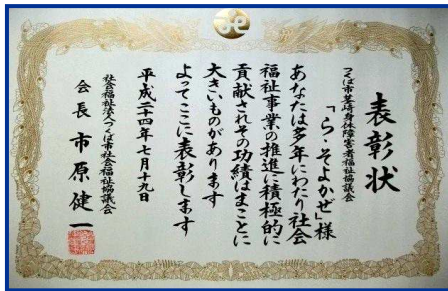
ら・そよかぜ 表彰

おめでとございます

つくば市25周年記念式典にて、ウクレレクラブ

「ら・そよかぜ」が、社会福祉協議会会長顕彰者ボランティア部門で表彰されました。

同じく葛屋さんが活動しております福祉詩吟サークル「つくば友和会」も同様に授賞しました。



つくば市福祉協議会「ら・そよかぜ」表彰状



そよかぜの茎身協会員 葛屋・木嶋・木村



↑ 発足した当初のメンバー(8年前)

そよかぜの一員として、あつとという間の5年間を振り返ってみました。

思えば、ふれあいサロンの中から、茎身協ウクレレクラブとして発足したのが平成16年。旧会員の森氏のご指導により、ウクレレ技術の習得に努めてまいりました。

その間一部メンバーに変動があつたものの、現在は老人福祉施設訪問やイベントの参加等を中心にボランティア活動を続けております。

歌は我々の生活にハリを与え、気持ちを元気づけてくれます。その楽しさを、皆様と共有しよう、これからは歌とウクレレを通して皆さんと楽しんでいければと思っております。

今後も茎身協ボランティア



↑ 昨年の文化祭出演メンバー

2007. 5. 23	「ら・そよかぜ」 正式に命名 茎崎社協ボランティア 茎崎交流センターに団体登録
2008 年度	近隣の福祉施設への訪問コンサート 13回
2009 年度	23回
2010 年度	26回
2011 年度	25回
2012 年度	2012. 7. 8 現在 7回

